

函館大学と台湾の大学生が交流 新型コロナで3年ぶり訪問

02月09日 20時32分



函館大学の学生が、函館市を訪れている台湾の大学生と料理をつくって交流を深めました。

函館大学は、2015年から交流の目的で台湾南部の台南市にある長栄大学と提携協定を結んでいて、日本語を学ぶおよそ10人が新型コロナウイルスの影響でおよそ3年ぶりに函館市を訪れています。

9日は、長栄大学の学生が日本人向けの台湾風料理として考えた「あんかけスープ皿うどん」を一緒につくりました。

学生たちは料理をつくりながら日本語で交流し、函館大学の学生が包丁の使い方を教えたり、長栄大学の学生が現地の調味料について紹介したりしていました。

料理が完成すると、日本語で「いただきます」とあいさつして料理を味わっていました。

参加した函館大学の学生は「皿うどんは懐かしい味がしました。台湾の学生との交流を通していままで知らなかった文化を知ることができてよかったです」と話していました。

また、長栄大学の学生は「日本と台湾のことをお互いに学べてうれしかったです」と話していました。

函館大学では今後も長栄大学と交流を続け、函館の食材を活用した台湾向けの料理などを提案していきたいとしています。